

庄内総合高校2年生10人が「リアビズ高校生 模擬企業グランプリ」全国銅賞を受賞

リアビズとは、高校生が自分たちで模擬企業を設立し、仕入れや商品制作、販売から経理まで行い「リアルなビジネス」を体験するプログラム。同校では授業の中で「環境とエネルギー」分野に興味を持った2年生10人が集まり「会社を設立するために必要なこと、大事なことを学びたい。高校生の自分たちがどこまでやれるか試したい」という思いで挑戦を決めました。

会社名を「くりーんあーす どりふいんず」と命名し、全員で商品開発を行ったほか、それぞれ人事法務部や広報マーケティング部などに分かれてお金のやりくり、情報発信などを担当しました。地元でハンドメイドを取り扱う方から指導してもらい、キーホルダー型アクセサリや、ドライフラワーなどの商品開発を行いました。

社長の片桐末夢さん（2年・三川町）は「メンバーをまとめること、コミュニケーションをとっていくことが大変だった。銅賞はすごくうれしいが、もっと上の賞も目指せたのではないかと悔しさもある。ぜひリベンジしたい」と話していました。



余目第三小学校の学校新聞「なかま」が 内閣総理大臣賞を受賞しました！

余目第三小学校の学校新聞「なかま」が、第71回全国小・中学校・PTA新聞コンクールの小学校学校新聞の部で全国1位となる、内閣総理大臣賞に輝きました。学校新聞「なかま」が同賞を受賞するのは平成30年度に続き2回目となります。

新聞の内容は児童の笑顔になる瞬間を掲載するコーナーや、2年ぶりに開催された水泳学習や運動会を1面で紹介するなど、6年生7人、5年生5人の新聞委員みんなで意見を出し合いを決めました。

委員長の渡邊愛心さん（6年・跡）は「以前発行した新聞とデザインが被らないように気を付けて作成した。この賞の受賞を聞いたとき、最初は夢みたいと思った。評価されてとてもうれしい」と話し、副委員長の阿部蒼馬さん（6年・廿六木）は「新聞に掲載する絵を、紙面に空白ができすぎないように工夫して描いた。受賞を聞いた瞬間は、あまり驚きはしなかったけど、賞状やトロフィーをもらうなど、ことが進んでいくにつれどんどん実感が湧いてきた」と話していました。

